

---

# すろーらいふ ういず ゆー

猫と杓子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

すろーらいふ ういず ゆー

### 【Nコード】

N54080

### 【作者名】

猫と杓子

### 【あらすじ】

どこにでもいるような普通の大学生、川野 梢。

ひょんなことから彼はバイトからの帰宅中に猫を拾う。しかし、その猫はとある惑星からやって来た侵略者のスパイだった!?

「……って、そんな話だったか!？」

「ボ、ボクはスパイなんかじゃないのです」……」

………はい、「冗談です。」

猫耳少年と過ごすほのぼの系日常ストーリー、開幕！

ゆるやかな日々を、あなたとともに

## キャラ設定

### 設定など

・川野 梢 かわの しよつ

主人公。特にこれといった特徴がない大学生。大学近くのアパートで一人暮らしをしている。よく名前の読み方を間違われる。

・ユウ

元子猫。アパートの階段の下で段ボールに入れられて（捨てられて）いたのを梢に拾われた。  
何故人間になったかは本人にも（そして作者にも）わかっていない。

・古山 直人 こやま なおひと

梢がバイトをしているコンビニの店長。  
少し頼りなさそうだが、優しくて物分かりのいい人。  
名前で呼ばれない人一号。

・古山 こやま  
水海 みなみ

店長（直人）の奥さん。

おっとりとした性格。

名前を読み間違えられる人二号。

・白鳥 つぐみ（しらとり つぐみ）

梢が住んでいるアパートの管理人。

いつも管理人室でいろいろな雑誌を読んでいる。

少し（かなり？）天然な人。

名前で呼ばれない人二号。

くはじまり 猫との出会い

川野 梢。 19歳。

俺は今日、子猫を拾った。

事の始まりは今日の夜。いつものようにバイトから帰ってきた俺は、アパートの階段下であるものを見つけた。

丁寧な字で『拾ってください』と書かれた段ボール箱。中には、一匹の子猫が入っていた。白と黒の毛並みで、生まれてからまだ1〜2年くらいしか経っていないような小さな子猫だった。それにしても……

「……何故に猫？」

多分、何かしら事情があつて飼えなくなったとか、そういうのだろうと思つた。まったく、飼い猫を捨てるとはなんて無責任な。

「ていうか、こいつどうするんだ……？」

見つけてしまった以上、俺には見捨てる事なんて出来ない。

「……仕方ない、管理人さんに相談してみるか……」

俺はこのアパートの管理人に、子猫を飼っていいか相談する事にした。

コン、コン。

管理人室のドアを軽くノックし、開く。中では女性が一人、ソフ

アーに腰掛けて雑誌を読んでいた。

「失礼しまーす。管理人さん？」

「あら、川野くん？珍しいじゃない、どうしたの〜……………あ、もしかして恋愛相談？」

「はい……………俺、今気になる人が……………って、違いますよ！」

相変わらずジョークが好きだな、まったく……………

「なんだあ、つまらないわね〜……………なんちゃって。

で、本当は何の用事かしら？」

「それが、この階段の下に猫が捨てられてたんですけど……………そのままにするのも可哀想ですし、俺の部屋で飼ってもいいですか？」

「いいわよ」

「やっぱり……………って、いいんすか!？」

「ええ、元々このアパートはペット禁止じゃないし、そうやって私に一声かけてくれるだけで充分よ」

「そうでしたか……………分かりました、ありがとうございます!」

「いいのよ〜。その代わり、ちゃんと責任持って面倒見るのよ？」

「はい!」

その後、俺はもう一度管理人さんにお礼を言い、猫を連れて部屋に戻った。

どうやら猫は空腹なようで、しきりにニャーニャーと鳴いていた。「そういえば、冷蔵庫の中に……と」

俺は冷蔵庫から牛乳を取り出し、少し温めてから猫に与えてみた。猫の前に牛乳の入った器を置くと、すぐさまピチャピチャと音を立てて元気良く飲みはじめた。よほど空腹だったのだろう。

数分もしない内に猫は牛乳を飲み終わり、毛づくろいをし始めた。

「そういえば、こいつの名前考えてやらないとな」  
名前か……特に思いつかないな……

普通ならタマとかにするとところだろうが……どうしようか。

「……まあいいか。明日は休みだし、そんな時にゆっくり考えよう」  
学校とバイトで疲れていたため、その日は早めに風呂に入って寝ることにした。

風呂から上がり、布団を敷く。すると、猫はいかにも一緒に寝たいと言っているかのように足元にすりついてきた。

そこで、俺は猫を抱きかかえて寝ることにした。疲れていたのもあってか、俺はすぐに眠りへと落ちていた……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5408o/>

---

するーらいふういずゆー

2010年12月14日20時03分発行